

このメールマガジンはスポーツ振興くじ (toto) 助成金を受けて配信しています。

☑ スポーツ振興くじ (toto) についてはこちらから
[日本スポーツ振興センター HP] <http://www.jpnsport.go.jp/>



スポーツ振興くじ助成事業

特集

会員や地域住民に向けた広報を行っているクラブ

クラブが当該地域の中で認知度を高めるためには、会員および地域住民に向けて情報を発信する必要があります。今回は、会員や地域住民に向けて積極的に広報を行っているクラブを紹介します。

[詳細→](#) NPO法人 赤ベクトータルスポーツ

[詳細→](#) NPO法人 川西スポーツクラブ

特別企画

障がい者スポーツと総合型クラブ

地域コミュニティの核として期待されている総合型クラブは、地域の障がい者がスポーツに親しむことができる環境を今後さらに提供することが期待されています。今回は、障がい者スポーツを導入しているクラブの事例を紹介します。

[詳細→](#) 一般社団法人 飛騨シューレ

[詳細→](#) NPO法人 あいずみスポーツクラブ

連載

みんなで盛り上げよう! オリンピック・ムーブメント

総合型クラブの現場で活躍しているクラブマネージャーの方々に、全国の総合型クラブが取り組むことができるオリンピック・ムーブメント等のアイデアや、2020年、そしてそれ以降も含めた総合型クラブの未来についてお話しいただきました。

[詳細→](#) 座談会

助成金情報

- (公財) ヨネックススポーツ振興財団「ヨネックススポーツ振興財団 平成29年度助成金」
- (公財) スポーツ安全協会「平成29年度スポーツ普及奨励助成事業」

[詳細→](http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/H28/MM129_aid.PDF) http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/H28/MM129_aid.PDF

お知らせ

- イベント情報
 - ・ブロック別クラブネットワークアクション2016
 - ・生涯スポーツ・体力づくり全国会議2017開催
- 平成28年度生涯スポーツ功労者の決定!
- セミナー情報
 - ・スポーツボランティアサミット2016
 - ・公開講座

[詳細→](http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/H28/MM129_info.PDF) http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/H28/MM129_info.PDF

バックナンバー

毎月配信される総合型地域スポーツクラブ公式メールマガジンは、バックナンバーとしてPDFでいつでも閲覧可能です。 [こちらをクリック](#)してご覧ください。

特集

会員や地域住民に向けた広報を行っているクラブ

NPO法人 赤べこトータルスポーツ
 <福島県河沼郡柳津町>

日本体育協会が掲げる総合型クラブの基本理念「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造」を実現するためには、会員および地域住民に向けて積極的に情報を公開し、クラブの理念や活動状況を知ってもらう必要があります。

そこで今回は、会員や地域住民に向けて積極的に広報を行っているクラブを紹介します。

ここがポイント!

- ① パンフレット・広報誌等多くの媒体を活用!
- ② 行政と連携し、自治体の発行物とあわせて各世帯に配布!
- ③ 掲載写真やデザインにもこだわり、伝わりやすい内容で作成!



1 クラブ概要

高齢者の医療費増大や町民・子供たちのスポーツをする機会の減少、スポーツをする人とならない人の二極化の問題が顕在化してきている中で、平成20年に当時クラブの運営委員長（現在の理事長）が議会の一般質問で提案し、当時の教育長の働きかけでスポーツクラブを設立しました。

健康のためにレクリエーションとしてスポーツを楽しみたい人の受け皿としていくつかの教室を開催し、誰でも取り組みやすい運動を通じて会員の健康・体力の保持増進、地域コミュニティの活性化を目指し、地域密着型のクラブとして活動してきました。

今後安定したクラブ事業の提供が求められている中、クラブの信頼性を高め、経営の透明化と自主財源の確保を図るため、クラブのミッション・ビジョンを描きながら、平成28年1月19日に法人格を取得しました。平成28年4月からはNPO法人として新たな体制で活動をしています。

使用している広報ツールの 内容・作成方法・活用方法等

■ 広報ツール一覧

【会員募集】

発行物名	会員募集パンフレット	赤べこ広報	講習会・イベント等要項	
作成目的	「地域住民」を中心にクラブの活動・目的に興味を持ってもらい、参加・賛同してもらう	会員以外に「地域住民」に幅広くクラブの活動を知ってもらう	参加者や会員を増やすため	
掲載内容	・募集規約 ・各教室の案内 ・NPO法人の目的の説明 ・賛助会員の紹介	・活動報告、教室紹介 ・totoで購入したスポーツ用具の紹介 ・賛助会員企業の紹介	各教室のPR	各教室の案内、イベントの開催予定
配布対象	各世帯	各世帯	会員	各世帯
配布方法	区長文書を利用し、各世帯に配布	区長文書を利用し、各世帯に配布	公民館・小中学校にも掲示	区長文書を利用し、各世帯に配布
仕様	A3両面、カラー 三つ折りパンフレット	A4両面、カラー	A4片面、モノクロ	町の広報お知らせ版に掲載
発行頻度	年1度(年度初め)	年3回	都度	都度
経費	toto助成金	toto助成金	クラブ会計	町の総務課
その他	ワードで事務局が作成、印刷会社にて印刷	ワードで事務局が作成、印刷会社にて印刷	事務局作成(ワード利用)	掲載については、町の企画財政班と調整
工夫特徴	読み手を引き付けるような構成にしている。	両面、カラーのため読み手を引き付けやすい	各教室ごとに作成、インパクトがある写真を使い「会員募集中！」の文字を大きく使う	町の広報誌に組み込まれているため、地域住民、各世帯に伝わりやすい

【会員のサービス】

発行物名	赤べこ通信	お知らせ	キッズスポーツ通信
作成目的	毎月の活動内容や各教室の内容を知ってもらう	・各月のクラブの予定を知ってもらう ・興味を引き付け、参加が増えるようPRも兼ねている	参加したことがない小学生や保護者の方、さらに学校の先生方に興味を持ってもらい、参加者の増員を狙う
掲載内容	・毎月の活動報告 ・各教室紹介	・翌月の予定表 ・翌月のお知らせ ・賛助会員の紹介	毎月の活動報告
配布対象	会員	会員	キッズスポーツ参加者
配布方法	手渡し (一部は郵送)	手渡し (一部は郵送)	手渡しもしくは小学校に配布を依頼
仕様	A4片面、モノクロ	A4片面、モノクロ	A4片面、モノクロ
発行頻度	毎月発行	毎月発行	毎月発行
経費	クラブ会計	クラブ会計	クラブ会計
その他	事務局作成(ワード利用)	事務局作成(エクセル利用)	事務局作成(ワード利用)
工夫特徴	写真を必ず載せて活動の様子が伝わりやすくする	翌月のカレンダー付で各日程がわかりやすい	子供向けなので写真がメインである

【区長文書】 町が指定する行政区の各区長宛の文書であり、毎月発行される。各地区ごとに分かれているので各世帯に配布したい各団体のチラシや回覧等もそれを利用し、配布。

各広報ツールは、様々な人や組織から賛同・支援をいただくために必要不可欠なものです。また、クラブからのお知らせや活動報告等も会員や地域住民に活動の様子が伝わりやすいので積極的に活用しています。そこに、クラブがPRしたい相手に対してわかりやすく上手に伝えられるよう活動の様子等がわかる写真を掲載しています。

なお、クラブでは、ホームページも開設しています。原稿は事務局で作成し、業者に更新を依頼しています。

3 工夫・特徴

事業報告として、毎月1回は必ず「赤べこ通信」を発行しています。「赤べこ通信」では、クラブでの活動やイベント開催の紹介を載せていますが、活動の様子がわかるように必ず写真を載せるようにしています。そのため、各行事等がある場合は事務局もその場へ出向き、会員の方の笑顔の写真やインパクトがある写真等、ベストショットを狙って写真を撮るようにしています。また、事務局も一緒に行事等に参加し、自分自身が体験したことや参加して得たことも交えて文章にしています。

その他にも、カラー印刷のものは、春ならばピンクなどの淡い色、秋なら紅葉を連想させる色といったように季節感を感じさせる色を使用したり、見出しは読み手の興味を引き付けるような、短くてインパクトが強い文言を使用するようにしています。

4 作成方法

各広報ツールはクラブマネジャー 1名が作成しています。なお、クラブマネジャー 1人で広報ツールの作成に加え、イベントの企画、会計まで全てのことを日常業務として行っています。自主財源が乏しく、もう1名スタッフを雇用することが難しいため、今後は理事の方や会員の方に協力要請をしたり、ボランティアスタッフを募集し、広報誌の配布、PR活動に協力してもらいたいと考えています。

5 地域住民への効果・影響

広報物を作成したことにより、活動地域でのクラブの知名度が上がり、クラブがどのような活動をしているのか、地域住民にも興味・関心を持っていただけるようになりました。

実際に広報物を見た方からは、生き生きと活動している様子が写真から伝わってくるという声などもいただいています。

6 リスクマネジメント

広報物作成にあたっては、以下の点に気をつけています。

- 経費節減：プリントミスをしないようにする。（町役場の印刷機をお借りしているため）
- 誤字脱字等対策：不備がないか他のクラブスタッフのチェックを受ける。
- 個人名の掲載：個人名を出す際は掲載の可否を確認する。
- 文字の大きさ等：なるべく文字を大きく、見やすくし年配の方々や子供達にも興味を持っていただけるようにしている。
- 配布漏れ対策：会員向けの広報は配布漏れがないよう、名簿を作成し最終確認する。

7 今後の課題、展望

今後は、地域住民の方を中心に多くの方にクラブに興味・関心を持っていただけるような文章・構成を考え、チラシのワンパターン化を防ぐために、他のクラブの広報ツール等も参考にしていきたいと考えています。そのためには、他のクラブとの連携を強化し情報交換等を積極的に行う必要があります。さらに他地域の方にも、クラブの知名度があがるような広報をしていきたいと考えています。

また、広報物作成にあたり、エクセルやワードをさらに使いこなせるような技術の向上も今後の課題です。

その他、広報紙の掲示やPR活動を積極的に依頼し協力してもらうためにも、学校や各施設との連携を強化することやクラブのイベントを多く企画することも広報の充実につながると考えています。

経費面では、現在は一部の広報物をtoto助成を受けて作成していますが、toto助成が終了した後の対応が課題です。広報物は、区長文書に載せるチラシ以外は、毎月各会員に手渡し、もしくは郵送しています。理想としては、毎回区長文書に掲載し、各世帯に渡るようにしたいと考えていますが、全世帯約1200枚分を印刷するとなるとインク代や用紙代等のコストが掛かるため、難しいのが現状です。来年度以降のクラブの体制を今後、理事会でしっかり協議する必要があると考えています。

(赤ベコトータルスポーツ クラブマネジャー 鈴木 里美)

クラブプロフィール

設立年月日：平成20年4月20日(平成28年1月19日法人登記)

所在地：福島県河沼郡柳津町

運営：会員数53名(平成28年10月現在)
予算規模897万円(平成28年度)

有給職員：1名

クラブ内資格保有者数：日本体育協会公認アシスタントマネジャー 1名

特徴：人口が3582人(平成28年10月1日現在)という小さな町ですが、B&G海洋センター体育館、B&G海洋センタープール、テニスコート、運動公園グラウンド等のスポーツ施設が充実しており、クラブの活動場所としても利用しています。また、「スポーツ振興の町」として従来から町がスポーツに力を入れてきましたが、少子高齢化や過疎化が進み、様々な問題を抱えているのが現状です。そのような環境の中で、「地域住民」を中心に、子供からお年寄りまで多世代の人がクラブを通じて友好の輪を広げ、楽しく体を動かしながら絆を深めることを目指して活動しています。クラブの名称にもなっている「赤ベコ」は、柳津町が発祥の特産品です。

■連絡先

郵便番号	969-7325		
住所	福島県河沼郡柳津町大字柳津字金谷沢乙1795番地 (柳津町B&G海洋センター内)		
TEL	0241-42-2246	FAX	0241-42-2546
Eメール	akabeko_total_sports@yahoo.co.jp		
ホームページ	http://www.aka-total2016.com/		



特集

会員や地域住民に向けた広報を行っているクラブ

NPO法人 川西スポーツクラブ

<奈良県磯城郡川西町>

日本体育協会が掲げる総合型クラブの基本理念「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造」を実現するためには、会員および地域住民に向けて積極的に情報を公開し、クラブの理念や活動状況を知ってもらう必要があります。

そこで今回は、会員や地域住民に向けて積極的に広報を行っているクラブを紹介します。



ここがポイント!

- ① 目的に応じて広報誌・リーフレット・ホームページなどを使い分け!
- ② 町とも連携し、自治体の広報に折り込んで全世帯に配布!
- ③ マラソン大会やテレビも活用して、クラブのアピールを!



1 クラブ概要

川西スポーツクラブは、平成15年度日本体育協会の総合型地域スポーツクラブ育成支援指定クラブの委託事業を受け、体協役員やスポーツ指導委員によりクラブ設立の準備がスタートしました。しかし、市町村合併による施設使用の問題などにより、プレ教室として活動が始まったのは平成18年からです。その後、地域住民の参画で平成19年5月に「川西スポーツクラブ」が設立、平成23年1月にNPO法人格を取得、平成24年4月より川西町内にある7つの体育施設の指定管理者となりました。クラブの理念は(会員ひとりひとりが主役)「みんなで作る・みんなのクラブ」です。

2 5つの広報ツール

	月刊広報誌カワスポ 「たいむず」	リーフレット	ホームページ	Facebook	チラシ・ポスター
経緯と目的	町広報誌に折り込むことを町に承諾していただき、総合型クラブが生涯スポーツを担うことを広報	会員募集のため、また年度の記録として発行	急な教室事業の休講など、タイムリーに告知できること	日々の活動やイベントをいち早く配信	広報誌では申込書を紙面に掲載するスペースがないことから、個別に作成
内容	・クラブ紹介 ・カレンダー ・プログラム ・イベント情報 ・大会の結果 ・入会案内	年間教室事業・クラブ事業のプログラム紹介	・クラブ紹介 ・カレンダー ・プログラム ・イベント情報 ・大会の結果 ・入会案内	教室やクラブの活動内容紹介	イベント(ゴルフコンペなど)の告知と申込書が一緒になっており、非会員も参加できる案内
作成方法	広報部会で正会員が企画・編集・校正をして、事務局担当で作成 ※正会員10名が広報部会を担当	運営委員会で次年度の事業が決まり次第、事務局担当で作成	事務局担当者が更新	正会員および教室指導者から活動内容を聞き、事務局から配信	イベント担当者が作成
活用方法	次回のイベント予告や、大会の報告として活用	クラブの啓発アイテム、年度の保存版	スマホから見られるので、急な教室の休講などの連絡として活用	会員のみならず他クラブへの情報発信としても活用	町内公共機関やスーパーなどにも置いて、広く募集
注意した点	特に画像や写真、名前の掲載に注意するとともに、配色や文字の大きさ・字体にも配慮				
良かった点	ネット検索が苦手な高齢者に好評	手元においてくれる	SNSとの連動やQRコードの活用ができる	タイムリーな情報発信ができる	イベントの詳細を記載できる
工夫した点	文字の大きさ、見やすさ	見やすさ、保存しやすい大きさ	教室・クラブの活動内容や指導者の情報などをわかりやすく掲載	記事を読んでいた方に反応していただけるよう工夫し掲載	目に留まるよう、目立つように工夫
経費	会員の年会費や協賛金などで予算立てを行い、コストを抑えて作成				

3 工夫・特徴

SNSでは正会員からいただいた活動内容の記事や写真を掲載、広報誌では大会等で活躍された会員をピックアップし掲載しています。他の内容は広報担当の正会員が意見を出し合い、掲載に繋がっています。みんなのクラブですので、できるだけ皆さんの意見を尊重し広報活動をし、情報公開しています。

また、様々な方に周知するためにも、設立準備期に教育委員会が携わっていたつながりから、町広報誌へのクラブ広報誌折込に協力いただいたり、地元スーパーに勤務されている女性や自営業で商工会と繋がりのある男性にお願いし、町内の公共機関やスーパー等にもチラシ・ポスターを配置していただいたりと、地域の方にクラブを知っていただく取組を行っています。

4 作成方法

担当者は、広報部会のメンバーの意見をまとめ、また、的確にイベントや活動内容を掲載していきます。

広報誌はA3用紙の限られた範囲ですので、情報がたくさんあるほど難しくなります。見やすさや字の大きさ・読みやすさを考え、字体に変化をつけて掲載に繋げています。

HPやSNSは非常に便利なツールですが、写真の掲載等には気を付けています。写真は、個人のアップなどはNG。活動の全体写真や活動写真などを掲載し記事にしています。

5 地域住民への効果・影響

広報ツールを活用し、より多くの住民の方に「クラブが目指すもの」「クラブの近況」「事業の概要」「会員募集等」「お知らせ」などの情報を知ってもらうようにしています。

会員募集についてはクラブのパンフレット、イベントや大会の情報は開催チラシ・毎月の月刊誌などすべて、町との協働で広報誌に折り込んで川西町全世帯に配布しています。お陰様で「KAWA-SPO」といえば、川西町のスポーツクラブという認知度が高まっています。

以前川西町で行われたマラソン大会も、町内を走ることで活動を見ていただく大きな広報ツールの役割を果たしました。自治会の皆さんに立哨してもらったことでクラブの認知度もあがりました。またTVの広報ツールを活用することで、奈良県内でテレビに取り上げられたクラブとして、会員さんや地域の皆さんから「見ましたよ。うちのクラブが、テレビで映っていましたね」と声をかけていただく機会も増えました。

NPO法人になってからも、ホームページには事業報告や会計報告、次年度の事業計画や予算計画をのせることで、クリアなスポーツクラブであることを知っていただいています。

6 リスクマネジメント

イベントや大会など主催・後援の団体がある場合は、チラシなどに誤字脱字がないかをよく確かめています。また後援については、団体に対して文書による申請が必要かどうかを必ず確認します。個人同士の口約束は、団体にとってトラブルのもとになります。

また個人情報保護法ができてからは、クラブで活躍された人を掲載するときも個人情報について注意しています。入会時に写真や名前をクラブに帰属して掲載される旨の署名をいただいています。再度、個人情報を掲載することの可否を確認した上で掲載しています。ホームページでは、大会やイベントの写真を見もらう会員専用のページも設けています。

7 今後の課題、展望

課題は、クラブの広報を会員のみならず地域や県全体に発信していくことだと思います。そうしていくことで、会員数の増加や事業の拡大に繋がるのではないかと考えています。当クラブの地域では住民数が限られていますので、地域外の会員も増やしていきたいと考えています。

また、メディア等に取り上げていただくことで、総合型地域スポーツクラブがより多くの方に知っていただくとともに利用していただきコミュニケーションの場を増やし、体力向上・健康増進に繋げていきたいと考えています。

何事も継続していくことが重要であると思っていますので、今後も広報活動に力を入れていきたいと考えています。

(川西スポーツクラブ クラブマネジャー 白馬 龍毅)
(奈良県クラブアドバイザー 川崎 香織)

クラブプロフィール

設立年月日：平成19年5月6日(平成23年1月18日法人登記)

所在地：奈良県磯城郡川西町地区

運営：会員数：730名(平成28年10月現在)
予算規模：2,496万円(平成28年度)

有給職員：3名

クラブ内資格：日体協公認クラブマネジャー 3名

保有者数 日体協公認アシスタントマネジャー 6名

日体協公認競技別指導者資格5名

日体協公認フィットネス指導者資格1名

日体協公認ジュニアスポーツ指導員資格2名

日体協公認スポーツプログラマー指導員資格2名

特徴：クラブが設立して平成28年5月で満9年となりました。「初心に帰る」いつも謙虚な気持ちをもって、幼児から高齢者まで地域住民の皆さんが明るい社会生活をおくることができるようにスポーツを通してコミュニティの場所を提供しています。クラブ理念は「みんなで作る・みんなのクラブ」です。みんなで居場所づくり・みんなで仲間づくりを大切にしています。正会員は45名おり、指導者の方も正会員としてクラブのため色々な意見を出していただき、より良い事業を企画しています。また、30名の方がボランティア賛助会員としてイベントや大会に役員として参加していただいています。みんなで作る・みんなのクラブが川西スポーツクラブです。

■連絡先

郵便番号	636-0202
住所	奈良県磯城郡川西町結崎1287-1
TEL	0745-44-1616
FAX	0745-44-1616
Eメール	ma63aw58ml@kcn.jp
ホームページ	http://kawaspo.org/

障がい者スポーツと総合型クラブ

一般社団法人 飛驒シューレ

<岐阜県飛驒市>

地域スポーツクラブへの障がい者スポーツの導入について、2016年のブロック別クラブネットワークアクション(NWA)で情報提供を行っておりますが、参加できなかったクラブも多数いらっしゃるかと思います。

そこで今回は、障がい者スポーツを導入しているクラブの事例紹介をいたします。



※このPDF内の写真は、障がいの有無に関係なくすべての子どもたち・大人の方たちを写しています。

1 クラブ概要

設立背景と現在までの経緯

4段階を経て、組織を固める。

2005年7月～2007年6月、3カ年計画・飛驒市体力向上健康増進モデル事業「山っこ倶楽部」として発足

→ 2007年7月、事業終了とともに「山っこ倶楽部」から「飛驒シューレ」と改名して活動継続

→ 2009年1月、一般社団法人格取得

→ 翌2010年11月、総合型地域スポーツクラブとして岐阜県体育協会へ届出

| 設立時のキーパーソン

宮下充正氏 (東京大学名誉教授/現・首都医校校長)

科学的な視点で事業展開するためのプロジェクトチーム チーム長

山田ゆかり

立ち上げ時の事務局担当と現在まで継続運営担当

| クラブ理念

ライフスキル (生きる力・甲斐性) を身につけること。こどももおとなもひとりひとりが「何ができる?」「どうすればいい?」を考え、相手を思いやりながら自主的・継続的に活動することを目指す。シュレのすべての活動はそのための「ツール」とする。

| 理念実現に向けた現在の活動状況

- 定期的活動場所を分散させ、メンバーの広域化を図る。

Little Tree Houseを拠点に、キッズクラブ (神岡小、古西小、古川小の学校区)、シニア体操クラブ (神岡町)、アクアウォーク (宮川町)、HYSクラブ (飛騨吉城特支) などで分散して活動。

- 飛騨地区や他のスポーツ団体との連携 (協働) を推進。

メンバー以外の人々 (こどもたち) と共に運営、参加できる事業を季節ごとに定着させ、かつ継続的に展開。

(例) 4月バスケットボールクリニック、6月ウォーキング、7月キッズスイミング、8月宇津木妙子杯6時間ソフトボールゲーム、絵本ワーク、10月スポーツフェスティバル協力、11月テーピングワークショップ、KOD! (多種目スポーツ体験会)、12月グッドコーチングワークショップ、2月雪遊び、3月Allカップ+キッズテニスなど。

- 特別支援学校の協力を得てオルタナティブな活動を推進と同時に、高等部生徒、OB・OGをキッズクラブのリーダーとして育成・登用。

2 導入の経緯・種目等

私たちは「障がい者スポーツ」ではなく、「障がいをもったこどもたちとの協働活動」という考え方であることが大前提です。オルタナティブな活動の推進を心がけています。それが、障がいをもつこどもたちが、スポーツと触れあうための第一歩だと思っています。

※ オルタナティブ…既存のものに取ってかわる新しいもの

| 経緯

2014年春、総合型地域スポーツクラブのひとつの役割である障がいを持つ人々へのスポーツ普及を目的とする「事業申請案内」が岐阜県障がい者スポーツ協会からきた

- 申請し、認可された
- 事業内容を特別支援学校のこどもたちを対象にした
- 告知や声掛けで、特別支援学校PTAのご協力を得た
- ことあるごとにチラシを作成し、市内の特別学級にも配布
- 参加希望者の見学
- 2015年度Ⅱ期目を受託
- 事業受託の可否に関わらず、定期的な活動にしたい旨を参加者に提案
- 同意を得て、シュレ活動の一環とする (HYSクラブという呼び名をつける)

対象種目

対象種目をキッズテニスとスナッグゴルフ※にしている。動くボールと止まるボールの両方をプレーできる種目を揃えることで、子どもたちの特性をより活かすことが目的。定期的な活動はそれぞれ行い、イベントはキッズクラブのこどもたちと一緒に活動するため、障がいの有無に関わらず、シューレのメンバーは同じ種目を行う。

※年齢や体格差・技術差の区別なく、屋内でも安全に楽しめるゴルフ。

活動場所

なかなか踏み出せないこどもたちの気持ちを考え、日頃親しんでいる特別支援学校の体育館を会場にしたことが、安心安全という点で奏功している。

テニス

テニスに関しては、年2回、日本テニス協会から専門コーチが来てくださっているが、日頃の活動での指導者には保護者たちが携わっており、ともに活動をつくりあげている。



3 導入による効果・影響

定期的な活動はそれぞれの地域別になりますが、シューレの全体イベントはすべてのこどもたちがいっしょに活動するので、障がいがあるかないかはこどもたちにとって関係ありません。無意識のうちにいっしょに活動できることが大切です。

特に、特別支援学校高等部生徒やOB・OGメンバーは、キッズクラブのこどもたちの面倒をよく見てくれるので、イベントによってはリーダーやサポーター的な役割を担ってもらうことがあります。それは彼らにとっても重要な活躍の場であり、やりがい、生きがいを感じる場となっています。

4 今後の課題・展望

特別支援学校の生徒やOB・OGメンバーが、イベント時のリーダーやサポーターを担えるようなエデュケーションの場を作りたいです。

5 その他

障がいがある・ないで区別することが、当事者には差別と感ずることがあります。私たちは、障がいの有無、民族、宗教などにかかわらず、すべてのこども（人々）はイコールという考え方、生き方を、シューレメンバーひとりひとりに意識してもらえるような、活動方針を持っています。もちろん、日頃のこどもたちへの声掛けも同様です。思いやりの心を育てるには不可欠の考え方だと思います。また、スポーツの本質にも通ずると思います。

「障がいがあるこどもはスポーツ少年団に入りにくいという思いがありました。シューレの活動は、まさに望んでいた『こどものための定期的なスポーツ活動』なので、すごくうれしいです」という声を、特別支援学校に通っているこどもたちの保護者からいただいています。

「障がい者へのスポーツ普及」「障がい者スポーツ」と特別視せず、いつものように、いつもの人々とっしょに、楽しくスポーツをする、というスタンスが「うまくいくコツ」ではないでしょうか。



(一社) 飛騨シューレ
代表理事 山田 ゆかり

クラブプロフィール

設立年月日 : 平成17年7月1日(平成21年1月法人登記)

所在地 : 岐阜県飛騨市

運営 : 会員数:85名(平成28年10月現在)
予算規模:140万円(平成27年度決算)

有給職員 : 0名

クラブ内資格保有者数 : 日本体育協会公認アシスタントマネジャー 1名

特徴 : オルタナティブなクラブをめざしています。メンバー以外も参加できる広域的な事業や連携(協働)事業を積極的に推進しています。

■ 連絡先

郵便番号	506-1121
住所	岐阜県飛騨市神岡町殿1208-9 Little Tree House
TEL	090-2529-7062
ホームページ	http://hida-schule.info/

障がい者スポーツと総合型クラブ

NPO法人 あいずみスポーツクラブ

<徳島県板野郡藍住町>

地域スポーツクラブへの障がい者スポーツの導入について、2016年のブロック別クラブネットワークアクション(NWA)で情報提供を行っておりますが、参加できなかったクラブも多数いらっしゃるかと思います。

そこで今回は、障がい者スポーツを導入しているクラブの事例紹介をいたします。



1 クラブ概要

藍住町教育委員会・体育指導員(現スポーツ推進委員)が運営する5つの教室(障がい者、女性、シニア、ジュニア、親子)を主として平成16年に設立しました。

会員及び地域住民に対し、スポーツ活動の普及振興を図るとともに、生活習慣病等の予防を目的とした業務を行い、誰もが運動習慣等を身につけ、健康で明るく生きがいのある豊かなまちづくりに寄与することを目的にしています。

2 教室内容・実施までの経緯

町民スポーツニーズ調査の結果を受けた話し合いにより、すべての町民がスポーツ活動に参加できるように「障がい」を持つ人のスポーツ教室をつくらうという意見がありました。障がい者スポーツ指導員・レクリエーションインストラクター・スポーツボランティア等に呼びかけ、障がいのある人・障がいのない人が共にスポーツやレクリエーションの楽しさを体験し、ふれあいを高めることを目的とした「障がい者ふれあいスポーツ教室」を実施しています。

「障がい者ふれあいスポーツ教室」は、クラブ設立前に教育委員会が運営していた教室を引き継いで行っています。この教室は、隔週（1回につき1時間30分）で開催し、ソフトバレー、囲碁ボール、ラージボール卓球、ドッチビー等のニュースポーツを行っています。参加者は知的障がいのある方が多いのですが、身体障がいのある方もともに参加されており、障がいや年齢に応じて、それぞれができる範囲で参加をしています。教室実施にあたっては、ニュースポーツを実施するのに必要な用具のみ準備しており、特に障がい者スポーツだからといって、特別なものを準備しているわけではありません。

また、「障がい者ふれあいスポーツ教室」とは別に、運動指導と栄養指導を行っています。これは、障がい者施設より依頼を受け、障がい者が抱えている問題の1つである運動不足の解消を目的とし、肥満傾向にある人たちを対象にしています。運動指導では週に1回、参加者のニーズを聞きながら興味のわく継続しやすいものとして、歩くことからバドミントンやバスケットボールまで行っています。栄養指導では健康状態を把握し、カロリーの取り方や、調理実習で野菜の切り方・味付けの工夫等を丁寧に指導しています。

3 地域への影響

障がい者がスポーツ教室に参加することにより、声を掛け合うなど、お互いにふれあいが多くなりました。障がい者の活動範囲が広がりを見せると共に、障がいのない人の障がい者に対する理解が深まり双方にとって良い変化が現れました。

4 今後の課題・展望

まずは障がい者が積極的にイベントに参加していくよう働きかけています。その次に一つのブースを障がい者が運営し、最終的にはイベントの企画・運営に関わっていけるようになればと考えています。

障がい者スポーツを推進していくには、指導者の育成が必要になります。研修会等を多数開催するなどして、理解を深めることによりふれあいが増えます。

総合型地域スポーツクラブも設立後10年を超えるクラブが増えてきました。役員やクラブに関わる人達の世代交代の時期にきています。「創るより継続が難しい」と言われるように、まずは主催者側が楽しむことを忘れずに、創設時の「思い」を継続し、進化する事に挑戦していきたいと思います。

（あいずみスポーツクラブ
クラブマネジャー 住田 瑞子）

クラブプロフィール

設立年月日：平成16年10月 あいずみスポーツクラブ設立
平成19年10月 NPO法人格取得

所在地：徳島県板野郡藍住町

運営：会員数：1637名（平成28年7月現在）
予算規模：19956千円（平成28年度）

有給職員：11名

クラブ内資格：障がい者スポーツ指導員、健康運動指導士、
保有者数 健康運動実践指導者、レクリエーションインストラクター

特徴：幼児から高齢者まで幅広い年齢層に加え、切れ目なく参加できる
教室を展開しています。

■連絡先

郵便番号	771-1251
住所	徳島県板野郡藍住町矢上字原230-1
TEL & FAX	088-692-5000
Eメール	ai-sport@mxi.netwave.or.jp
ホームページ	http://wwwi.netwave.or.jp/~ai-sport/

連載



みんなで盛り上げよう!

オリンピック・ムーブメント



菊地 正氏

河野 景子氏

鹿内 葵氏

大崎 恵介氏

総合型地域スポーツクラブ 座談会 「クラブマネジャーが考える総合型クラブの未来」

座談会メンバー

- 大崎 恵介氏 (アスとれ総合型クラブ クラブマネジャー／山梨県)
- 河野 景子氏 (NPO法人 都農enjoyスポーツクラブ クラブマネジャー／宮崎県)
- 鹿内 葵氏 (NPO法人 スポネット弘前 理事長／青森県)
- 菊地 正氏 (当メールマガジン編集委員長：NPO法人 高津総合型スポーツクラブSELF 副理事長・クラブマネジャー／神奈川県)

世界中に大きな感動を巻き起こしたリオオリンピック・パラリンピックが閉会し、2020年の東京オリンピック・パラリンピック(以下、東京2020)の開催もいよいよ4年後に迫ってきました。

(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が本年7月に公表した「東京2020アクション&レガシープラン2016」では、プランを成功させるための5つの柱の1つに「スポーツ・健康」を掲げています。この柱を担うと考えられるのが総合型クラブであり、東京2020を契機に全国の総合型クラブがより地域に定着することが期待されます。

そこで今、総合型クラブの現場で活躍されるクラブマネジャーが東京2020をどのように捉えているか、また全国の総合型クラブが取り組むことができるオリンピック・ムーブメントはどのようなものがあるか、2020年、そしてそれ以降も含めた総合型クラブの未来についてお話しいただきました。

リオオリンピック・パラリンピック大会の様子

リオオリンピック・パラリンピックの期間中、ブラジル・リオに設置された「Tokyo2020 JAPAN HOUSE」(以下、ジャパンハウス※1)にて、活動された大崎氏から現地の様子や印象をお話いただきました。

※1 ジャパンハウス

リオオリンピック・パラリンピック期間中に現地でオープンしていた、東京2020や東京という都市自体をアピールするための施設。各種展示物のほか、浴衣の着付けや書道といった文化体験コーナーが人気を博した。

司会: 大崎さんはリオの現地を体験されて、どのような感想を持たれましたか？

大崎: 日本に関していえば、次のホストシティなので日本選手にすごく注目が集まっていた。他にもパラリンピック種目は、ブラジルの方がほとんど知らないような種目が多いので、選手を見ることで「こんな種目があるんだ」と認識するきっかけになったと思います。また、スポーツの多様性、そして選手との親密度・親近感という意味で、子どもたちに非常に影響があったのではないかと感じました。パラリンピックは音を出して応援していい場面といけない場面があります。ブラインドサッカー※2なら音で判断するため声を出してはいけないので、そういう教育的な側面を持ちながらパラリンピックを観戦するというのも、印象に残りました。



大崎恵介氏

また、私が運営に携わっていたスポーツ庁ブースで世界中の人々が一番感動したのは「羽子板のデザイン」でした。いわゆる日本人形のような伝統的なデザインでしたが、「なんて美しいの！日本はこういうものがたくさんあるの？」と言われて、現地の方々から「欲しい！」とお願いされました。ただ、1個しかなかったのであげられなかったです(笑)。ここで気づいたのが、羽子板という遊び・スポーツではなく、そのデザインが評価されたことです。つまり、こちらが見せたいものと向こうが見たいものが異なるわけです。そのギャップをどう埋めていくかが必要であり、日本の人々と世界の人々が望む2つの側面を同時に披露しなければならないという点で、オリンピック・パラリンピックはすごく難しいイベントなのだなど感じると同時に、現地の方々からは「あなたたちの2020年はもっとすごいものになるんでしょう？」というプレッシャーもかけられましたね。

※2 ブラインドサッカー

視覚障がい者のためのサッカーで、全盲の選手により行われる。ボールの音とガイド役の声による指示でプレーするため、応援にマナーが求められる。

リオから東京へ 地域×東京2020×総合型クラブ



河野景子氏

司会: 大崎さんのお話では、世界の人々と私たち日本人では、同じ日本でも全く見方が違うとのことですが、地域に根付く文化や日本独自の魅力を世界にアピールする上で、地域の目線、そしてクラブの目線では、どのような取り組みが考えられますか？

河野: 総合型クラブだけではできないことも多いと思うのですが、逆に総合型クラブだからこそ何かできることがあるのではないかと考えています。地域単位で考えたときには、その地域の行政と手を組んでできることもある

と思いますし、地域にあるいろいろな団体と繋がることで、多くの可能性がでてくるとも思います。

ですので、地方に住んでいてもオリンピック・パラリンピックを他人事じゃなく何かしらの形で参加できるものにしたいです。海外の選手たちを迎える準備に携わるとか、オリンピックのグッズが地方でも買えるとか、選手が東京以外の地域にも来てくれるとか。そういうことを期待しますし、実現できたらいいなと思います。

鹿内： ロンドンの時も、そういう底辺（地域単位の活動）の拡大や英国全土における文化プログラムの実施にすごく力を入れていたようです※3。ですので、日本は総合型クラブを中心に、スポーツ文化の土壌を地方まで広げることにはチャレンジできると思います。



鹿内葵氏

ただ、2020年が到着点ではないので、そこから新しく出発しなければいけません。どういう仕組みをつくるかも大事ですね。どういう仕組みがあれば、（スポーツを通して）子どもからお年寄りまで楽しめる環境ができるのか。それを世界に示す機会であってほしいなと思います。

※3 2012年ロンドンオリンピック・パラリンピック競技大会

大会開催4年前の2008年から「カルチュラル・オリンピアド」と題した大規模な文化プログラムがロンドンのみならず英国全土で開催され、合計で約18万にも及ぶ様々な文化イベントに約4,300万人の人々が参加した。

参考：http://iccliverpool.ac.uk/wp-content/uploads/2013/08/London_2012_Cultural_Olympiad_Evaluation_ICC.pdf

河野： せっかく海外の方々が日本に来てくれるので、その地域にある素敵な「おもてなし」ができればいいですね。観光地や神社仏閣であったり、その土地の自然を紹介したりすることも「おもてなし」だと思います。選手が頑張っている姿や、地域に来ていただくことを通して、私たちが元気をもらう代わりにそういうおもてなしでお返りする。「やっぱり日本っていいところだな」と感じてもらえることを発信できればと思います。

日本人のマナーがいいと言われていたのも、日本文化から生まれていると思います。「もったいない」という言葉もありますし、お米でも水でも何でも敬う心、大切にしている気持ちが日本人にはあると思います。2020年に向けて、そういう日本文化をもう一度見つめ直すきっかけになるのかなと思いますね。

菊地： 繋がりと総合型クラブというキーワードで言うと一つ考えていることがあります。震災等、災害が発生したときには体育館を中心に避難すると思いますが、そこでの生活は非常に大変です。例えば、地方と都市とで離れたクラブ同士、もしくは同じ地域のクラブ同士がこれからもっと交流を図り、繋がることで、ある地域が被災したときに別の地域のクラブで被災者を受け入れられる態勢をつくる。それは災害大国といわれる日本だから、そして総合型クラブだからできることだと思います。



菊地編集委員長

もちろん、いきなり知らない人たちがいる場所に行ったのでは大変な状況は変わらないので、そのクラブ、地域と何度も交流をしていることが前提です。そうすれば友達付き合いもできてきて、通常の避難所よりは居心地のよい環境ができると思います。どの地方でも災害は他人事ではないので、交流を深めてそういう繋がりをつくりたいですね。そして、鹿内さんもおっしゃっていた仕組みという点では、このような総合型クラブを中心とした地域の繋がりを世界にアピールすることもできますね。

河野： 東京で2回目のパラリンピックが開催されるので、障がい者スポーツにも着目したいですね。私の地域の行政とは、「障がい者に優しいまちづくり」じゃなくて、障がい者も楽

しめるまちづくりにしたいね」と話しています。

私たちの街で開催している蹴-1GP※4では、障がい・福祉の分野との融合も意識していて、(健常者と)障がい者とのカテゴリも分けていません。同じ条件で対戦できるようにしています。こういったアイデアも地域にどんどん取り入れていければと考えています。

※4 蹴-1GP

読み方は「けりワングランプリ」。NPO法人都農enjoyスポーツクラブが事務局を担う、PK大会に特化したフェスティバル(今年度から一般社団法人蹴-1協会が主催)。

菊地: 障がい者スポーツとオリンピックの繋がりで考えると、例えば、障がいを持った子どもたちがオリンピックの開会式でプラカードを持つとか、車いすで先導するとかはできるわけで、そういう参加の仕方をぜひやってほしいなと思います。オリンピックでそういうことができれば、もっと盛り上がるし関心も高まるはずだと思っています。

総合型クラブは何ができるのか?

オリンピック・ムーブメントのアイデア

司会: 皆さんのお話は、まさに総合型クラブだからできることだと思います。それでは、今度は具体的にオリンピック・ムーブメント※5として、地域や総合型クラブができるアイデアをお聞かせ下さい。

※5 オリンピック・ムーブメント

オリンピックの精神(オリンピズム)に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現を目指す活動のこと。代表的な活動として、ドーピングの撲滅、女性の参画、経済支援などがあげられる。

参考: www.joc.or.jp/movement/data/movementbook.pdf

1 日本独自の文化を海外に発信し、世界と繋がる

大崎: スポーツ・フォー・トゥモロー※6の事業で「アフリカで運動会を開催しよう」というものがありました。オリンピックを説明するときに「大きい運動会」という言い方をすることがありますが、これはあながち間違っていないと思います。大勢の人たちの交流の中で競技が進んでいき、選手はしっかりと全力を出し切る。それを見て多くの人が喜ぶ。そういう日本人が当たり前やってきたことが、海外ではすごく評価されることがあります。

※6 スポーツ・フォー・トゥモロー

東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される2020年までに、官民連携のもと開発途上国を中心とした100カ国・1000万人以上を対象に推進されるスポーツ国際貢献事業。

参考: <http://www.sport4tomorrow.jp/jp/>

司会: ラジオ体操もそうですね。地方では方言を使用したラジオ体操もありますが、海外向けに英語版もできていますね。

大崎: 海外だと反応がすごいですよ。ラジオ体操の音楽がかかったらみんな同じ運動ができるということがすごく不思議らしくて。途中の跳躍のところはジャンプにあわせて声を出したり、手拍子を始める人も出てきたりして、どうやらダンスにも見えるらしいです。スポーツでもそれ以外でも、世界の反応を見て、改めて日本のことを知るいい機会だと思いますので、日本の文化を発信していくことが大事だと思います。

河野: オリンピック・パラリンピック開催までの準備として、例えば私たちが書いた絵が選手村に飾られ選手たちが見てくれるとか、書いた手紙が海外の選手たちに届くとか、具体的な繋がりが持てたらいいですね。「開催されました」で終わりではなく、準備段階で関わることで他人事から自分事になっていくと思います。

鹿内: 下請けというのは変ですけど、クラブで応援フラッグとか作らせてほしいです。「あれ、うちが作った応援フラッグだよ!」と言えますし、そういう関わり方はできるかもしれないですね。

河野: 作ります!(笑) 選手もそうですが、観光として来日された方々向けに何か仕掛けたいですね。全国のクラブ・地域同士がすぐに繋がるうとしても難しいと思うので、何かコンセプトが共通するクラブ同士、地域同士で何かやってみるのはどうでしょう。例えば、宮崎は神話の国と言われているのですが、それは神武天皇が生まれた土地だからなのですね。それで、神武天皇が東に向かう際に通った地域・クラブと連携して、日本らしいストーリー性を持ったツーリズムと一緒に考えると。あと、同じコンセプトのクラブと神楽(かぐら)^{※7}を練習して、開会式で踊るとか。いろいろ楽しいことが考えられると思います。とにかく何かで関わられたらいいんですよね。小さなことでも。

※7 神楽(かぐら)

民俗芸能のひとつで、神に奉納するための歌や踊りのこと。

② ボランティアとしての関わり

司会: 昨年、平成27年2月に本メールマガジンでは、「みんなで“参加する”オリンピック・パラリンピック」と題し、スポーツボランティアを特集しました。^{※8} その中で、クラブの活動やイベントに普段から携わっている方々がボランティアとしてオリンピック・パラリンピックに関わるという話題も出ました。

※8 みんなで“参加する”オリンピック・パラリンピックへ

(公財)日本体育協会発行 総合型地域スポーツクラブ公式メールマガジン第112号(平成27年2月20日)

参考: http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabushien/MM112_BN.pdf

鹿内: ボランティアに参加した人たちが、今度は地域のイベントを開催するとか、クラブの活動に関わってくるとか、繋がりを持って一緒にやっていければいいですね。オリンピック・パラリンピックがきっかけになって「自分の地域でも何かできるんだ! 盛り上げられるんだ!」という達成感が生まれて、地域に還元できる仕組みが望ましいですね。

菊地: 日本ではボランティアの意義とか喜び、価値観がまだまだ浸透していないと思います。オリンピック・パラリンピックを機にそういう意識を多くの方々に持っていただければ、2020年以降のレガシーにも繋がっていくと思います。

オリンピック・ムーブメントアイデア集

- オリンピック・パラリンピックの1日疑似体験
- 総合型クラブ・総合型クラブ連絡協議会にてスポーツボランティアや英会話ボランティアを養成する。
- クラブ会員一人一国応援運動
- 応援メッセージボードの作成
- 地域のトップアスリートを紹介・応援
- 総合型クラブ・総合型クラブ連絡協議会へのパラリンピアン派遣による教室・イベント開催

※平成28年3月2日に開催した「平成27年度SC全国ネットワーク」グループ協議の際に、SC全国ネットワーク代表委員の方々から出されたアイデア(一部)

司会: 皆さんのアイデアは、どれも今からできることですね。(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会は、本年10月より、オリンピック・パラリンピックへの多くの人々の参画を可能にする「東京2020参画プログラム」として、全国各地で応援プログラムを実施しています。このような流れからも、今後より多くの地域において、オリンピック・ムーブメントが拡大していくと思います。

河野: ひとつのクラブだけではできなくても、クラブが繋ぎ目になることで誰かの夢が続くこともあると思います。

大崎：4年後、オリンピック・パラリンピックが日本にやってきたときに、準備も含めて一歩踏み出せるような仕掛けをつくるのがすごく重要だと思います。東京2020は、もう今から始まっていますからね。

100年つづくクラブとなるために

未来に繋げるために、クラブができることとは

大崎：オリンピック・ムーブメントとは何かを考えるとともに、スポーツの価値・意義を明確にしていく必要があると思います。また、それに対して自分のクラブの理念をしっかりと見直す必要があるのかなとも感じます。

「このクラブはこの地域のために何をするのか」という明確なビジョンや理念、信念を持つことは、地域課題を解決する上でも重要です。クラブの進む方向がはっきりすることで、地域住民や様々な団体が「これがやりたいのか」と理解することができ、一緒に課題解決に向けて進むことが可能になると思います。

菊地：やっぱり、クラブから地域にどんどん発信していかないといけないと思います。例えば、行政がやることには限界や制限がありますが、クラブは何でもできますからね。まちづくりはクラブが主役にならないとだめで、自分のクラブができること・やるべきことをしっかり把握した上で行政に訴える。その成果が出てくれば当然行政も動くわけです。首都圏だと行政の担当者も3年くらいで代わる人が多いので、なかなかクラブへの理解を浸透させることは難しいのですが、それを続けていかないとクラブも育たないし、地域にも貢献できません。地域の他の団体にはできないことでも、総合型クラブにはできる可能性があるし、やらなければいけないと思うのです。具体的に何をやるかは地域によって違うでしょうけども、大事なことは我々がリーダーシップをとることです。

鹿内：地域課題への取り組みを、オリンピック・パラリンピックとどうリンクさせていくかを考えなければいけないと思います。

地方の話を少しさせていただきますが、いま弘前ではプロ野球の一軍の試合が29年ぶりに開催されることが決定し、野球場を改修したり、ソフトボールの東アジア杯の開催地に決まったりと※9、スポーツ熱が非常に高まっています。

しかし現場はどうかというと、野球やソフトボールの試合を見て自分もやってみたいと思っても、少子化の影響でスポーツ少年団や部活がないという現状なのです。つまり、夢ばかり見させても、実際には子どもたちがプレーできない。このムーブメントとは、総合型クラブがオリンピック・パラリンピックを活用し、それを契機に何か始めていくということですね。

※9 ソフトボール東アジア杯

前ソフトボール日本代表監督の齋藤春香氏は現在弘前市の職員で、ソフトボールの普及に力を入れている。第6回東アジアカップ女子ソフトボール大会は2017年6月17～22日に開催が決定。

司会：そうですね。ものすごく影響力がある東京2020が終わった後、クラブが地域に対して何ができるかを考えて、準備する必要がありますね。

鹿内：高齢化や少子化は世界でも直面している問題で、そのときに「日本はこうやってるんだよ」と見せられるのは一種のレガシーだといえます。それが、日本の財産になると思います。

菊地：そうですね。オリンピック・パラリンピックでどう変わるかじゃなくて、自分たちがどう変えていくかだと思います。

司会：それぞれの地域課題を解決していけば自然と全国のクラブは繋がっていくはずなので、そのためにもオリンピック・ムーブメントを全国展開していきたいですね。



総合型クラブの強みは「繋がり」

司会：今までのお話の中では、「繋がり」ということばがたくさん出てきましたね。

河野：これから未来を拓いていく人たちにとって、総合型クラブはオリンピックを通じて関わる地域の方のターニングポイントになりえる場をつくれる可能性があると思います。クラブも、地域も、結局は「人」が関わるのです。その人たちを繋げるきっかけとして、セッティングじゃないですけどクラブが何か提供できればいいなと思います。そういう人を増やして繋げていくことが財産だし、レガシーなのかもしれません。

鹿内：今日の話、子どもたちしてみたいと思います。中学校のゲストティーチャーとして話す機会があるので、どんな意見があるのか聞いてみたいです。一番影響を受ける世代、そしてこれから主役になる世代の意見ですからね。

大崎：オリンピック・パラリンピックが終わって「スポーツをやりたい」「あの選手みたいになりたい」という人の思いに応えるために、今から動き出さなければいけませんね。それは自分のクラブだけではなく、全国のクラブのネットワーク、そして地域のコミュニティも含めてです。

菊地さんが経験された前回の東京オリンピックの思い出のように、一番大きなレガシーは目に見えない、心に残るものだと思うのです。それを残すために各クラブが主体的に動いていくことが、この4年間、そしてその後も必要になるのだと思います。

菊地：2020年、そしてそれ以降に向けてしっかり貢献できるクラブはきっと100年続くクラブなのだろうと思っています。このように、若い人たちが意見を出し合って、日本のクラブ全体が前に進めるような状況になるのが楽しみですね。

クラブマネジャーから一言!

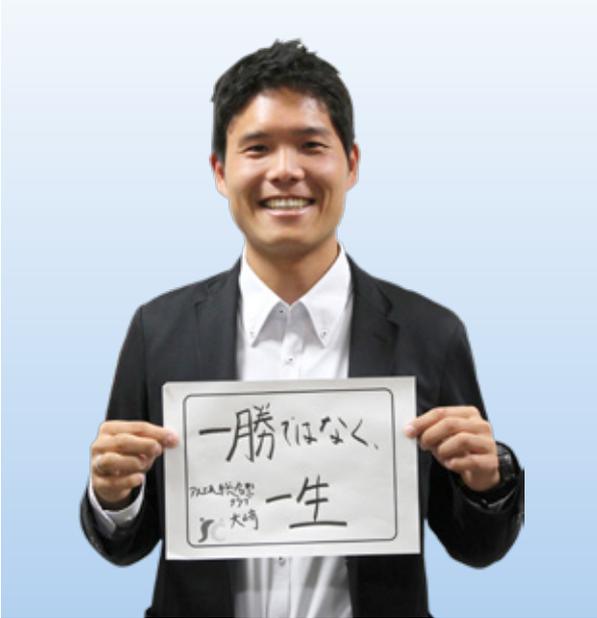


大崎 恵介

アスとれ総合型クラブ(山梨県) クラブマネジャー

中学校、高校時代をブラジルで過ごす。現在は山梨学院大学の特任講師をしており、運動遊びがスポーツにおける熟達化の中で果たす役割について研究している。

主な資格：(公財)日本体育協会公認アシスタントマネジャー
(公財)日本体育協会公認アスレティックトレーナー



「一勝ではなく、一生」

河野 景子

NPO法人 都農enjoyスポーツクラブ(宮崎県) クラブマネジャー

福祉施設職員を経て、現在宮崎県児湯郡都農町の同クラブでマネジャー兼介護予防等の運動指導者として活動している。地域活性イベントの企画運営も行う。

主な資格：(公財)日本体育協会公認クラブマネジャー
健康運動実践指導者



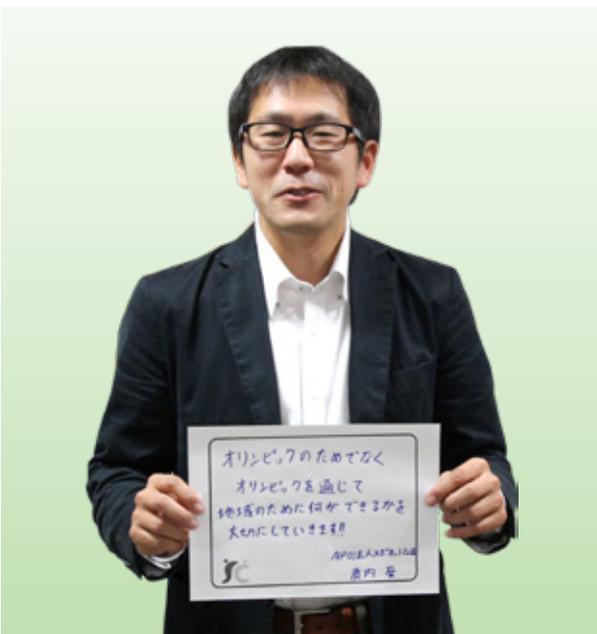
「地域の方々に必要とされ、地域にクラブがあって本当に良かったと思われる活動を」

鹿内 葵

NPO法人 スポネット弘前(青森県) 理事長・クラブマネジャー

弘前医療福祉大学非常勤講師、弘前大学特任講師。地域福祉の観点からスポーツを考え、総合型クラブを設立し現在も活動中。

主な資格：(公財)日本体育協会公認クラブマネジャー
社会福祉士、介護福祉士



「オリンピックのためだけでなく、オリンピックを通じて地域のために何かできるかを大切にしていきます!!」

菊地 正

NPO法人 高津総合型スポーツクラブSELF(神奈川県) 副理事長・クラブマネジャー

本メールマガジン編集委員長、SC全国ネットワーク代表委員(神奈川県)。100年続くクラブづくりを地域、学校、行政と一体となり行うとともに、新しい学校づくりの計画を推進している。

主な資格：(公財)日本体育協会公認クラブマネジャー



「一生の思い出に残るオリンピックを総合型クラブが作ろう!!」

助成金情報

■ ヨネックススポーツ振興財団 平成29年度助成金

[実施団体] (公財) ヨネックススポーツ振興財団

青少年スポーツの振興に関する事業を積極的に行い、奨励し、または自ら行い、かつ3年以上継続して活動している団体が対象となります。

[申込期間] 平成28年12月31日(土) ※当日消印有効

交付申請書をダウンロードし、必要事項を記入のうえ、対象団体であることを証明する書類を添付して送付します。

<http://www.yonexsports-f.or.jp/joseikin.html>

■ 平成29年度スポーツ普及奨励助成事業

[実施団体] (公財) スポーツ安全協会

法人格を有するスポーツ・レクリエーション等生涯スポーツ関係団体(営利法人を除く)が主催する、全国・ブロック単位で行われるスポーツ・レクリエーション大会等の開催費用の一部を助成するものです。

[申込期間] 平成29年1月20日(金) 必着

交付申請書をダウンロードし、必要事項を記入のうえ、関係資料を添付して送付します。

<http://www.sportsanzen.org/>


 お知らせ

イベント情報

◎ブロック別クラブネットワークアクション2016

【公益財団法人日本体育協会 総合型地域スポーツクラブ全国協議会 主催】

総合型地域スポーツクラブ関係者が抱える課題解決の糸口を探るための情報の共有化や、クラブ育成支援のためのネットワークの強化を図ることなどを目的として、全国9ブロックでクラブネットワークアクションを開催しています。

☑ 各ブロック開催報告等については以下のURLを参照ください。
<http://www.japan-sports.or.jp/local/tabid/508/Default.aspx>

◎生涯スポーツ・体力づくり全国会議2017開催

本会議では、スポーツ立国の実現に向けて、スポーツに関連する多様な人々が一堂に会し、研究協議や意見交換を行い、今後のスポーツ推進方策について検討します。

主 催：スポーツ庁／生涯スポーツ・体力づくり全国会議実行委員会

日 時：平成29年2月3日（金）10:00～

会 場：仙台サンプラザホール・ホテル

参加費等：参加費 1人2,000円（資料代込み）
 弁当代 1人1,200円（希望者のみ）
 情報交換会費 1人5,000円（希望者のみ）

申込締切：12月22日（木）

☑ 開催概要はこちらから
<http://www.japan-sports.or.jp/event/zennkokukaigi/tabid/200/Default.aspx>

☑ 参加申込はこちらから
https://www.ifys.jp/life-long_sport2017/entry/form/input/1

平成28年度生涯スポーツ功労者が決定しました！

生涯スポーツ功労者表彰は、地域または職域におけるスポーツの健全な普及および発展に貢献し、地域におけるスポーツ振興に顕著な成果をあげたスポーツ関係者を国が表彰するものです。

今年度は生涯スポーツ功労者158名、生涯スポーツ優良団体117団体が決定され、日本体育協会からは総合型地域スポーツクラブ育成指導者として9名を文部科学省へ推薦し、「生涯スポーツ功労者」として決定されました。

☑ 生涯スポーツ功労者一覧については以下のURLを参照ください。
<http://www.japan-sports.or.jp/index/news/tabid/92/Default.aspx?itemid=3420>

セミナー情報

◎スポーツボランティアサミット2016

今年8月・9月にRio2016大会を終え、今まで以上に2019年ラグビーワールドカップや2020年東京オリンピック・パラリンピックに関する話題が増えてきました。スポーツを取り巻く国内の環境が刻々と変化する中、スポーツボランティア活動への社会的な認識も確実に高まっています。

今回は、Rio2016の経験をどのように日本で活かすべきか、スポーツボランティアの視点で考えます。

主催：NPO法人 日本スポーツボランティアネットワーク

日時：平成28年12月17日(土) 13:30～16:30

場所：東京富士大学(東京都新宿区高田馬場3-8-1)

テーマ：Rio2016の経験に学ぶ ～スポーツボランティアができること～

構成：基調講演

「スポーツボランティアの可能性」朝日健太郎氏 (参議院議員)

パネルディスカッション

「Rio2016の経験に学ぶ ～国際スポーツ大会でのボランティアの在り方を考える～」

定員：150名

参加費：1,000円

お申し込みはこちら

<https://spovol.net/seminars/detail/?pid=38>

◎公開講座(1)

『Rio2016オリンピックボランティア活動報告 ～東京2020につなげる想い～』

2016年8月・9月に開催されたリオ2016で、ボランティア活動をした3名の日本人にご登壇いただき、リオに参加した様々な体験や想いを座談会形式で伺います。

主催：NPO法人 日本スポーツボランティアネットワーク

日時：平成29年1月11日(水) 18:30～20:30

場所：日本財団ビル(東京都港区赤坂1-2-2)

定員：100名

参加料：2,000円

お申し込みはこちら

<https://spovol.net/seminars/detail/?pid=39>

◎公開講座(2)

『Rio2016パラリンピックボランティア取材報告 ～東京2020につなげる想い～』

2016年8月・9月に開催されたリオ2016で、ボランティア等取材した星野恭子様にご登壇いただき、リオ取材した様々な実態や想いをお伝えします。

主催：NPO法人 日本スポーツボランティアネットワーク

日時：平成29年1月18日(水) 18:30～20:30

場所：日本財団ビル(東京都港区赤坂1-2-2)

定員：100名

参加料：2,000円

お申し込みはこちら

<https://spovol.net/seminars/detail/?pid=40>